

第5号様式（第7条関係）

会議録

会議の名称	平成22年度第4回清須市社会教育委員会
開催日時	平成23年2月23日（水） 午前10時00分～11時10分
開催場所	清洲市民センター 2階 集会室
会議概要	1 あいさつ 2 議事 議題1 平成23年度生涯学習ガイドの校正について 議題2 図書館の方向性について 3 その他
会議資料	会議次第 資料1 平成23年度生涯学習ガイド（案） 資料2 清須市立図書館改修工事設計業務プロポーザル実施要項
傍聴人の数 （公開した場合）	0人
欠席委員	後藤（昌）委員、石垣委員
出席者（市）	内田教育長
事務局	（生涯学習課） 大橋課長、加藤主幹、石田係長、楢本係長、 星野主任主査、阿野主査 （スポーツ課） 岩花課長、前田主幹、加藤主幹
会議の経過	内田教育長よりあいさつ 和田社会教育会委員長よりあいさつ 《意見の要旨》 議題 1 平成23年度生涯学習ガイドの校正について ○和田委員長 ただいまより、議題に添って進めさせていただきます。 これまで3回に涉り、生涯学習、スポーツの講座について委員の皆様にご協議いただきました。今回、23年度生涯学習ガイドの校正案できあがってきま

したので、事務局から説明をお願いします。

●事務局

「平成23年度生涯学習ガイドについて」資料説明

○和田委員長

ただいま事務局よりご説明いただいた内容について、皆様のご意見やご質問をお願いします。

○平松委員

新しい講座も結構入っていますが、これは皆さんの集計や参加者の統計から、あまり参加が少ないのは外して、新しくしたということですね。

4ページの「筆ペン教室」は以前からもあって、もう1つは新規で「毛筆教室」となっていますが、できましたら文化協会の関係の先生にお願いされているのですが、来年度は、先生は同じでないほうがよいのではないですか。これは一緒にした意味が何かありますか。

●事務局

「ボールペン」から「毛筆」に替えたということで、内容が前年度と違ってきますので新しい講座という位置づけになります。先生についてですが、来年度は日程の調整がついておりますので、24年度以降に検討させていただきます。

○牧野委員

よろしいですか。2頁目の「天文開放」について教えていただきたい。これは分類が「家庭」で、5頁の「天文教室」は「教養」という分類です。中身は同じようなことだけど、「天文開放」が「家庭」という分類になっていることについての理由を教えてください。

●事務局

はい。同じ天文を扱う講座なのですが、「天文開放」というのは、自由に参加いただける観測会を行うもので、「天文教室」は、事前に申込をした方を対象に講義形式で行っています。文科省が示す分野に照らし合わせたときに、「天文開放」の内容が「家庭」、「天文教室」は「教養」になりますので、このように分類させていただきました。

○牧野委員

普通の感覚で言って、天文が「家庭」という分類は納得できない。「趣味・教養」なら理解できるが、なぜ「家庭」の欄に天文が入っているのか、あまり普通の人には理解できないのではないかと。

●事務局

「家庭」という範囲が広いものですから、一般的な家庭という言葉を考えてとおっしゃるとおりで、当初申し上げましたように、分野、区分けについては、

全国的に示されているということで参考とし、変更させていただきました。他の市町については、市町により実情が違うため、ばらばらであったのですが、こうしていろいろ変えるタイミングで変えさせてもらいました。

●事務局

補足させていただくと、「天文開放」というのは、募集をせずに、定数もなく、無料で参加いただくという講座で、親子で来ていただいてもよいので「家庭教育」とさせていただきます。

また、「天文教室」については、勉強したいという方が事前に申し込みをして、有料で受講する講座です。天体ドームが創造センターにあります。清須市としてはそれを活かした社会教育ということをやっていかねばならないと考えています。

タイプの異なる講座ということで、「家庭教育」と「教養」というふうに分けたとご理解いただければと思います。

○和田委員長

分類がこうしてあって、「家庭」でいきなり「天文開放」がくると、間違いでないかと思われるので、「手作りパンお菓子」が上にきたほうが安心するかもしれません。

○岡松委員

以前からこのようなカテゴリーで分かれていましたか。

●事務局

いいえ。今回からです。

○岡松委員

これは解りやすいと思うんですよ。ただ、「家庭」、「現代的課題」、「歴史」等のカテゴリーについて、前段で分類の説明があると、より解りやすいのでは。「健康」、「スポーツ」は見ればわかりますが。

「家庭」に「天文開放」が区分される理由は、内容を聞けばすごくよくわかります。感性を育てるというか、子どもたちに星空を見せて「あれが北斗七星だよ。」と、そういう家庭的なものと捉えることができますし、「教養」の「天文教室」では、惑星など詳しくやっていく学問的なものですね。

分類の説明があれば、スムーズに市民の方たちも入りやすいのではないのでしょうか。ちょっと1頁ふえてしまうかもですが。

○石黒委員

講座の説明書きのところで「天文の世界を楽しみます。」に加えて、「親子で参加できます。」という文面があると解りやすいかもしれませんね。

○牧野委員

でも、親子でなくてもいいんでしょう？

●事務局

限定はありません。どなたでも自由に参加できます。

○牧野委員

僕なんか天文に関心があるけれど、これまでなかなかそういう設備がなかったので、合併してこういう講座があれば参加したいなという感じがします。「家庭」となると違和感があると思います。

●事務局

先ほども言いましたように、市町すべてが統一されているわけではございません。決してこれではなければというのでもではございません。

「天文開放」が、どうして家庭としたかというのが、文科省が示した分類が16個くらいに分かれているのですが、自然観測、天体観測といったもの、具体的にはバードウォッチング、野鳥観察会であるとか、磯辺の生き物観察であるとかが書いてあるんですけど、まさに「天文開放」の内容が、これに合致するというので「家庭教育・家庭生活」に分類させていただきました。

○和田委員長

市民が見たときに違和感のない、安心して見られるものにしたほうがいいと思うので検討してください。

他に何かありますか。直らないことでも来年度に反映できますので。

「天文開放」のところに「自由に見られる」ということも入れていただけるといいと思います。

議題 2 図書館の方向性について

○和田委員長

それでは、次の議題の「図書館の方向性について」事務局よりご説明をお願いします。

●事務局

「図書館の方向性について」資料説明

○和田委員長

ただいま事務局より説明がありました内容について、皆様のご意見、ご質問をお願いします。

○福田委員

2点ありますが、1つは県内で清須市が（図書館を持たない市としては）一番最後の砦の図書館ということで、前回の会議でも出ていましたが、利用者の貸し出しのシステム的なもの、例えば場所的なもの、借りたい本があるのか、ないのかなどの問題もあるのですが、システム的なものですね。今では4地区で貸し出せるのですが、使う利用者、例えば障害者の方が利用する場合など、

そういうことも含めて検討をお願いしたいということ。もう1点は、蔵書数が15万冊という保有数ですが、人口で割りますと1人あたりに2.26冊です。基準的なものはありますか。

●事務局

1つ目のシステムの事については、春日以外の3地区になると思いますが、インターネットを利用して予約等ができるようにしたいと思っています。本が1ヶ所に集約されるので、その場に本がないということになりますが、配達形式でその場所に届ける方法を考えています。

それから蔵書数につきましては、約2,400㎡の延べ床面積で、普通に図書館を建てれば平米数では満たすのですが、荷重の関係でこれが一杯一杯だということ。図書館の基準で、市のレベルとしては、このレベルでないといけないという決まりはありません。ですので、最大限、実施設計の中で精査して、書架等の配列についても検討して、少しでも蔵書数を増やしていける方向性を考えていきたいと思っています。

○福田委員

以前いただいた資料に、知立市は1人あたり3.06冊、北名古屋市は3.50冊との比較があったので、指数に基準があるのかと思いお尋ねしました。

○和田委員長

他にございませんか。

○後藤（尚）委員

3頁第13の中の提案課題という中に「環境に配慮した施設」ということで、私ども利用者の立場から、事務所設置基準とか、図書館基準とかありましようけど、新設ならともかく、既存の施設を改修されるということで、照明等の環境については利用者の立場に立って十分に検討してください。

○牧野委員

今の施設の真ん中のところに鯉の池があります。いろんな想いを持った方がおられるから、皆さんが納得されるように、情報提供してコミュニケーションを取ってほしい。

●事務局

その件については、私どもも大変心配しておりました。ここにもあるとおり、「いかなる改修も可」と書いてありますので、実際3社のうち、1社は池をつぶす、2社はそれを活かすということでした。審査していただいた中で、今回、大建設の案では、池の周りに屋外ウッドデッキを張り、読書テラスということで池を活かした憩いの場ということを提案されました。池を有効に使うんだよということをお認めいただいたということで、池を活かした施設という改修で考えております。

○石黒委員

設計のコンペを3社でやられたということで、既設の施設を造ったのは創建だったので、今回も創建が取るのかなと思ったら、大建設計ということですが、建物の強度計算などのデータは創建が持っている、大建設計は持っていない。表面を見て、だいたいの強度を想定しての設計だと思うけれど、それで大丈夫かなという気がするが。

●事務局

その辺については心配ないと思います。当初の設計は創建が作りました。当然、構造計算が出ています。その当初の設計図面から、確認申請書までをすべて公開し、精査した中で、すべての業者が同等条件で提案されているので、その点は心配ありません。

○石黒委員

大建設計は清須市内での実績や、どこかの施設を造っていますか。

●事務局

この施設（清洲市民センター）がそうです。ARCOも学校施設もそうです。

○和田委員長

その他で質問はありませんか。

ご質問もないようですので、次の「その他」に入りたいと思います。

「3 その他」について、事務局お願いいたします。

●事務局

特にございません。

○和田委員長

それでは全体を通してご意見やご質問がありましたらお願いいたします。

ないので、これで終了させていただきたいと思います。

○平松副委員長

以上をもちまして、平成22年度第4回社会教育委員会を終了させていただきます。本日はお疲れ様でした。

閉会（ 午前11時10分 閉会 ）

会 議 の 結 果

審議に関する事項はなし

問 い 合 わ せ 先

教育委員会生涯学習課

052-409-6471（清洲市民センター）